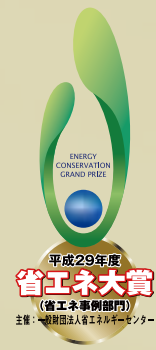


名古屋大学の環境への取組が多く、の賞に選出されました！



秋篠宮ご夫妻ご臨席のもと開催された地球環境大賞授賞式でトロフィーを授与される松尾総長

本学では、持続可能な発展を目指した世界最高水準の教育、研究、社会貢献を進めており、大学運営においては全学を挙げて省エネルギーに取り組んでいます。こうした多岐にわたる取組が評価され、2017年度には地球環境大賞、省エネ大賞をはじめとした5件もの賞を受賞しました。本誌では、受賞に当たり評価を受けた省エネルギーやCO₂削減の取組についても特集記事で紹介しています。(本誌P7～11に掲載)



省エネ大賞受賞者に使用が許可されるロゴマーク。省エネ活動の広報活動に活用しています。



名古屋大学の環境負荷について知ろう

事業活動のマテリアルバランス

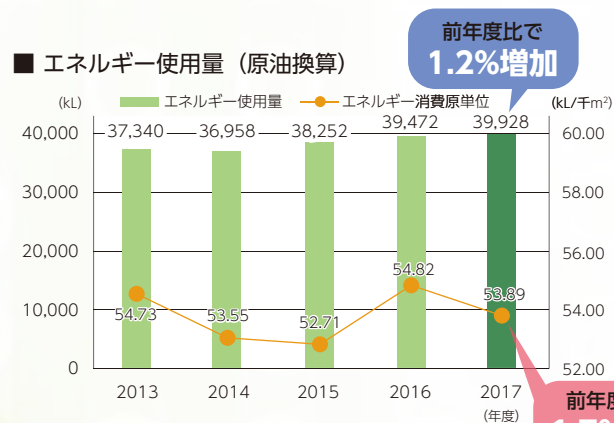
事業活動(教育、研究、医療活動)に伴って発生する環境負荷を把握し、データを集計・分析して環境負荷低減に努めています。下記は2017年度の資源エネルギー投入量と環境負荷物質排出量です。



エネルギー使用量・CO₂排出量 ▶集計対象範囲:全キャンパス(テナントの一部と宿舎を除く)

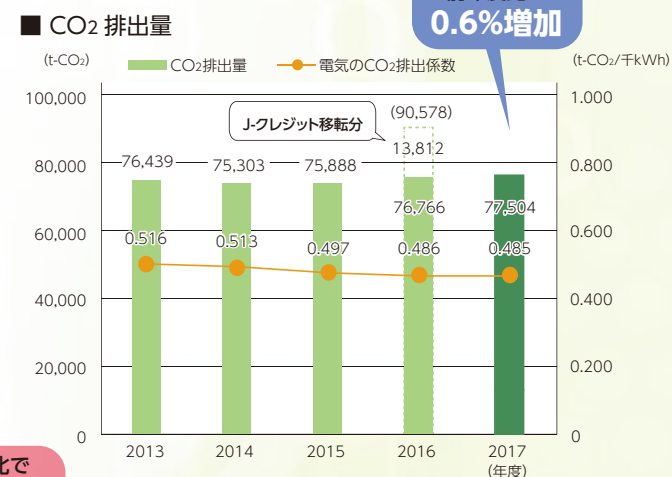
■エネルギー使用量

2017年度は、新たに建設された建物の稼働などにより、エネルギー使用量は前年度比1.2%の増加となっていますが、エネルギー消費原単位(施設面積あたりのエネルギー使用量)では、前年度比1.7%の減少となりました。



■CO₂排出量

エネルギー使用量は前年度比1.2%の増加となりましたが、CO₂排出係数が改善されたこともあり、CO₂排出量は0.6%の増加に抑えられています。



NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学環境報告書2018ダイジェスト

ー持続可能な社会に向けた活動ー

環境に関する教育と研究

キャンパスのどこで? 裏面のマップでわかります。

基礎セミナー「都市の川は甦るか？」

東山キャンパスの鏡ケ池を水源のひとつとしている山崎川。都市河川であるこの川を自然あふれる川に再生する糸口を提案する授業です。入学後間もない学部1年生がさまざまな課題に直面しながらも、チームで協力し、提案をする中で多様性を学んでいく様子を紹介します。(本誌P13、14に掲載)



名大
教育1
2018

農学部「海外学生受入研修」「海外実地研修」

農学分野においてグローバルに活躍できる人材育成を目的とした農学部の「海外学生受入研修」「海外実地研修」を紹介します。フィールドワークを中心とした研修プログラムで、農学の重要性だけでなく国際性や相互理解力など、多くを学ぶことのできる研修です。(本誌P15、16に掲載)



名大
教育2
2018

廃棄物からワンステップで水素製造

持続可能な社会の実現に向けて、次世代エネルギーを研究している環境学研究科の日比野先生と長尾先生の研究室を学生が訪ね、インタビューを行いました。研究の内容や苦労した点、異分野との関わりをもつ大切さについて伺いました。(本誌P17、18に掲載)



名大
研究1
2018

生物の進化と生態を解明します

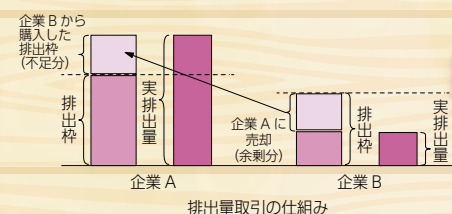
生態学を研究する環境学研究科地球環境科学専攻生態学講座では、フィールドワークを通して自然環境を深く理解し、生態系と人間社会の関係を再考して、地球環境問題に取り組んでいます。本文中では、研究室に在籍する学生自らが研究内容について紹介します。(本誌P19、20に掲載)



名大
研究2
2018

温室効果ガスの排出量取引

アジア共創教育研究機構は、アジアをはじめ国際社会が直面する共通課題に対し、その解決につながる成果を迅速に社会に還元することを目的として研究を進めています。3部門あるうちの環境部門の研究テーマである「脱炭素社会の実現と持続可能な開発」について紹介します。(本誌P21、22に掲載)



名大
研究3
2018

環境報告書2018 表紙作品公募



環境報告書ではPR活動の一環として、または環境について考えるきっかけとなる期待を込め、2016年度から表紙作品を公募しています。(本誌P58に掲載)

【2018大賞作品】
企画部(職員)
若原 静映さん

大規模災害時に 大学の安全と機能を守る

近い将来に発生する可能性がある南海トラフ地震など大規模地震を想定した全学防災訓練、地震対策ガイドラインやBCP(事業継続計画)の作成など、災害による被害を最小限に留め、大学の機能を素早く復旧・再開するための災害対策室の取組を紹介します。



(本誌P47に掲載)

環境パフォーマンス

障害のある学生のキャンパス・インクルージョンの実現のために

障害学生支援室では、障害のある学生が障害のない学生と等しく教育を受けることができる環境構築の推進のため、修学上必要とされる合理的配慮や事前的改善措置を積極的に進めています。学生サポーターの声を交えながら、その取組について紹介します。



(本誌P29、30に掲載)

社会的責任

「臨床環境学」で 持続可能な地域づくりに貢献

博士後期課程の学生を対象とした、岐阜県加茂郡白川町・東白川村に対し持続可能な施策を考え提案する「現場」での実践を通じた授業を紹介します。多様な学生メンバーや地域の方々との交流を通じて、受講生が成長していく様子を紹介します。



(本誌P25、26に掲載)

環境コミュニケーション

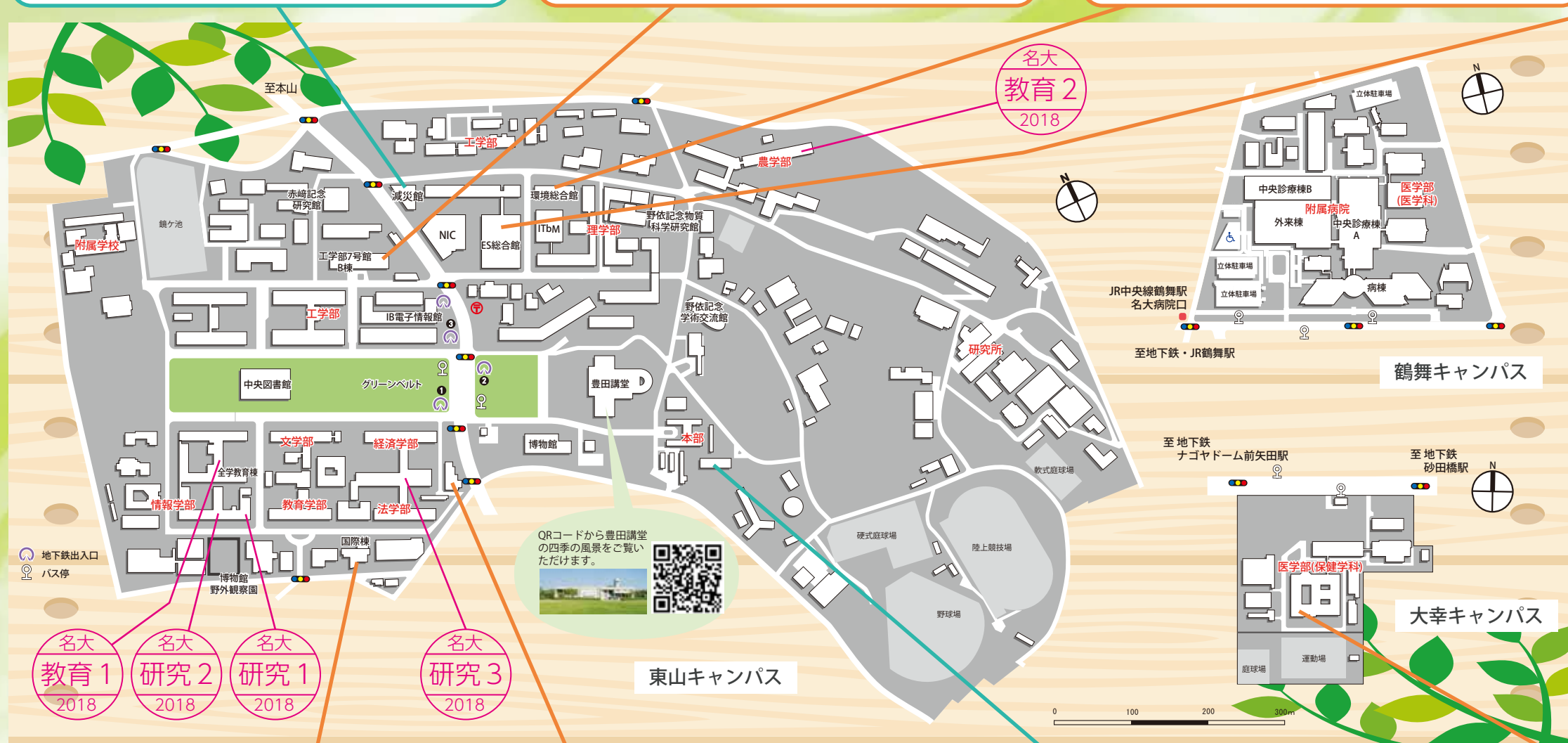
価値あるアイデアを名古屋大学から

本学の学生を中心に2013年に発足したTEDxNagoyaUIは、多くの人と価値あるアイデアを共有するため、さまざまなイベントを実施しています。TEDxNagoyaUのこれまでの活動、これからの挑戦について紹介するとともに、イベントの登壇者がトーク内容を紹介します。



(本誌P33に掲載)

学生たちの環境活動



学生サークルによる環境への取組

継続的に行われている環境に関するサークル活動の2017年度の成果について紹介します。(本誌P34に掲載)

名大祭実行委員会

模擬店で使用した
食用油を回収

集めた油
160ℓ
飼料やインクに
リサイクル

学内や地域から寄付された
古本を安価に販売

集約冊数 約 3,769冊
学内外で集めました
販売冊数 3,535冊
新しい読者の手へ

環境サークル Song Of Earth

下宿用品
リユース市

取り扱い物品数
220品
来場者数 200名

花いっぱい運動

花壇の面積 454㎡
プランター 60鉢
まいた種 約20,000粒
植えた苗 880株

名大祭での出店
(エコ工作)

参加親子組数 60組
ペットボトルで
空気砲づくりなど

ねこサークル なごねこ

新たに地域猫とした猫：6匹
(不妊・去勢手術した猫)
里親が見つかった猫：4匹



治療した猫：2匹
行方不明：2匹

国際性と個性を生かして 学び合う環境づくり

国際教育交流センターアドバイジング部門では、留学生やその家族に対し、文化適応などに関する支援や、個性を生かしながら学び合える授業やさまざまな活動の場を学内外で展開しています。本文中では取組内容とともに、支援を受けた留学生や学生ボランティアの感想も紹介します。



(本誌P31、32に掲載)

社会的責任

ジェンダー研究の拠点設立

男女共同参画センターでは、ジェンダー研究の拠点施設を新たに創設し、学内にとどまらず、幅広い世代、多様な人々がジェンダーについて考える機会を提供しています。拠点の創設をきっかけに、さらに活発になったジェンダー研究・教育活動について紹介します。



(本誌P27、28に掲載)

社会的責任

安全衛生教育の充実

2016年度から全学の安全教育プログラムを刷新し、年に2回の安全教育週間を設けるなど本学の教職員・学生を含むすべての構成員を対象とした多様な安全教育を実施しています。留学生等を対象とした安全講習会も年に2回定期的に開催しており、参加者から高い評価を得ています。



(本誌P46に掲載)

環境パフォーマンス

現場応用のための放射線計測研究

医学系研究科の卒業生である森下祐樹さん。現在は日本原子力研究開発機構廃炉国際共同研究センターで福島第一原子力発電所の廃炉に向けた研究開発に取り組んでいます。在学中の研究やその研究成果を生かした現場での活躍の様子を紹介します。



(本誌P35に掲載)

卒業生の活躍